

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	愛の家グループホーム札幌川沿 (1F すずらん)	評価実施年月日	H21年8月30日
評価実施構成員氏名	田中・小川・佐々木・竹本・小林・南・宮沢・綿谷		
記録者氏名	綿谷・宮沢	記録年月日	H21年9月15日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホームの理念、ユニットの理念、ホーム独自の理念を作り地域密着型のサービスの理解と確認し何度もスタッフ全員で話し合い作り、サービスの向上と実現に向け日々努力しています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝の朝礼時に会社・ホーム・各ユニットの理念を全員で唱和し、スタッフ一人、ひとりが日々のケアの中で意識生かしています。	定期的にユニット会議でも議題として取り上げ各自の理念への進捗状況などを確認、共有しサービスの向上を図っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	事業所内の見やすい所に掲示し、運営推進会議や日々のご家族の面会時などご家族や地域の方々と話し合う機会を作り理解していただいています。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ご利用者との散歩中などはもちろんスタッフだけの時なども積極的に挨拶を交わしています。また回覧板などもご利用者と一緒に訪問し日常的な付き合いができるようにしています。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のボランティアの方が毎月定期的に来てくれたり回覧板の情報により近くの保育園などで行われるバザーへ出かけたりお祭りやイベントに参加しています。	地区センターで行われる囲碁や図書館などへも出掛けたり、新たな取り組み(地域交流)を積極的に実践しています。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域で行われる研修などへ積極的に参加し、自己のスキルアップはもちろん高齢者の暮らしについてスタッフ全員で考えて話し合っています。	地域の方や高齢者などにホームの事、認知症の事を知ってもらえる様スタッフ全員で地域交流を計画し取り組んでいます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々コミュニケーションをとる中でご利用者の不安や不満、意見を受け止め全スタッフに伝わるようにユニット会議などで話し合いが出来る体制作りを行っています。		新たな取り組みとして、毎日短時間で行うミニカンファレンスで日々のケアやご利用者の状況に早急な対応出来る体制にしております。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に一回のホームからのお便りやご家族一人、ひとりに個別にもお手紙や電話を行い健康状態はもちろん、金銭管理状況、スタッフの状況などの報告を行っています。または面会時など積極的にご利用者の様子や体調について伝えていきます。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	不満や苦情などはなかなか話ずらい事と思い、その気持ちに配慮し日頃のコミュニケーションの中から汲み取るよう努めているとともに、玄関前に意見箱を設置し気軽に書いて頂ける様にしています。また年に1度のご家族アンケートも実施しています。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別に意見を聞いたり、月に一回のユニット会議・リーダー会議にて情報の伝達・共有や意見交換を行っています。		定期的に食事会、交流会、親睦会などを行い話が出来る場や交流を深める場を設けています。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ローテーションにより、さまざまな状況に対応出来るような勤務体制を整えています。また管理者を通常業務からははずす事でご利用者の状態の変化に応じて夜間も含めて対応出来る体制にしています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ご利用者にとって馴染みのスタッフが対応しやむなく異動や離職がある時は、引継ぎの期間を長くしご利用者やご家族に不安を与えないよう最善の努力をしています。		新たな取り組みとし月に1～2回、合同行事を行っており、スタッフが各ユニットを知りご利用者、ご家族と馴染みの関係が構築出来る様努めています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修は勤務扱いとして参加させています。又積極的に研修を受ける機会を設け研修報告書を提出し全スタッフに回覧で回したり、ユニット会議で報告し共有しています。</p>	<p>法人内、法人外での研修の参加によりスキルアップにつながっているため、今後も積極的に参加していきます。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者、スタッフ共に研修や勉強会、会議などを通して同業者とのネットワーク作りや交流、情報交換を大切にサービスの質の向上に努めています。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休憩時間が確保されており、時間内に終わる仕事を行っている。また定期的な面談などでスタッフの悩みなど相談出来る体制になっております。また年1回のスタッフアンケートも実施されています。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>事業所内で毎月介護の月刊誌を購入したり研修の機会を増やすなどスタッフの資格習得の支援も行い、その後は職場内で活かせる環境作りに努めています。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族が求めているものを理解しこれまでのご家族の苦労や経緯、ご本人の心身の状態や不安や希望などゆっくりと話を聴く様努めています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>困っていること、不安なことなどすぐに対応出来る事は実行し出来ない事や困難な事は全スタッフで話し合いホームとしてどうする事が望ましいのかを対策を考えています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	スタッフ同士で情報を収集し、支援の提案や相談を繰り返しご利用者の様子、またご家族の話しを伺いながら状況などの確認を行い必要に応じたサービスにつなげるようにしています。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	出きる限りご利用者にもホームの見学に来て頂き、他のご利用者、ホーム内、スタッフの雰囲気など感じてもらい納得してから利用してもらおうよう努めています。入居時には危険物以外は持込に制限を作らずご利用者の馴染みの物を持って来て頂き居室に置いて頂くことで安心して頂ける様努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご利用者やご家族から生活歴、経験などの情報を得て、それを活かしケアにつなげています。普段の会話の中での情報もスタッフ間でも共有しています。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族面会時に最近の様子をお伝えし、また気軽に相談して頂ける様スタッフからも積極的にお話し、ご家族と同じ思いで支援出来る様考え実践しています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事の日程を一緒に参加して頂いたり、面会時にはゆっくりと居室で一緒に過ごして頂いたりしています。また面会の少ないご家族には日々の暮らしの様子が分かる様に手紙、写真、電話等で報告させて頂いております。		新たな取り組みとし、ケアカンファレンスにご家族も入って頂き、ご家族へもケアの統一に協力を得ています。また一緒に参加出来る行事、企画を行い共に楽しみよい関係を保つ支援をしています。 (夏祭りやクリスマスパーティーなど)
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	個別ケアとして、ご利用者の馴染みの食べ物を食べに行ったり馴染みの場所に行ったりしています。ご利用者の生活習慣を尊重して考え支援しています。		地域の施設、イベントなども活用したり、1人ひとりの想いを聞き出し今後も個別ケアを継続して行っていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	外出や行事、レク等を一緒に楽しめる時間を作り共有スペースではご利用者同士がコミュニケーションがとれる様、また孤立しない様な関わり方に配慮しています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	連絡し訪問をさせて頂いたり、ご家族より相談があった場合はご利用者に一番いい方法を考えさせて頂いています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で、言動や表情を見てさりげなくご利用者に確認したり、スタッフ同士で情報を共有しご家族からも情報を得よう努めています。また、入居時、ケアプラン更新時はアセスメントに十分時間をかけて取るよう努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のアセスメントではご家族より情報収集を行い、入居後の普段の会話からも情報を経てスタッフ同士で共有しご利用者、ご家族からも話を聞くよう努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式のアセスメントを活用し、24時間の過ごし方や身体、精神面など、全体を把握出来る様努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご利用者、ご家族の思いや意思を聞き、スタッフの意見交換、ケアカンファレンス、モニタリングを行い、介護計画を作成しています。		新たな取り組みとしてケアカンファレンスへのご家族の参加も少しずつ増えています。今後も積極的に声かけを行っていき、たくさんの意見や想いを組み込んだケアプランにしていきたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の進行状況、効果を評価するとともに、スタッフ全員でのモニタリング、アセスメントを行い、ご利用者、ご家族からの要望を取り入れ期間終了前に見直しを行っています。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	食事・水分量・排泄・身体状況のチェック、いつもと違う言動やスタッフの気付きをケア日報や介護記録、連絡ノートなどで情報を共有、その中で重要なところは申し送りにて行い、さらなる情報共有を深めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人、ご家族の状況に応じて、通院、送迎など柔軟に対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ご利用者が安心して暮らせるように、定期的な消防訓練やボランティアの方々によるレクレーションなど実施しています。また運営推進会議にも参加して頂き共にご利用者を支えています。		今後もさらに地域の人々との交流が出来る様夏祭りを開いたり、地域のイベントなどに積極的に参加しています。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人の希望や体調に応じて訪問理容サービス、訪問歯科を利用したり、他のサービスを利用し情報交換や話し合いを行っています。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加して頂き、情報交換や協力関係が築かれています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、ご家族と協力しながら通院介助など行っています。緊急時または状態の変化時は夜間でも往診医と24時間連絡とれる体制であり、連携を図っています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	往診医が認知症高齢者に理解が深い医師であり、在宅や他施設なども多く関わっているため、指示やアドバイスなど随時行っています。また地域の専門医との連携もとってくれています。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	法人内で看護師が確保されており、日頃の健康管理、状態の変化にもすぐに対応でき、情報共有も出ています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にはご利用者の状態・情報を医療機関に提供したりスタッフが交代で見舞いに行ったり、直接医師や看護師、ご家族と退院のめどや治療方法などを相談する機会を作り、なるべく早く退院出来るようアピールしています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に重度化に伴う確認書を作成し、ご本人やご家族の意向をふまえた上で事業所が最大限に出来る支援方法を話し合っています。また日頃から面会やケアカンファレンスなどの中でも重度化した場合の支援について話し合い情報共有しています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご利用者やご家族の意向をふまえ、緊急時は医療機関やご家族と連絡をとれるような体制をとっています。		終末期や重度化におけるケアの認識を高め、チームワークを大切に重度化や終末期を迎えたご利用者の支援を行ってまいります。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他事業所や自宅へ移られた場合はアセスメントやケアプランなどを始めとしホームでの情報を伝えたりスタッフが機会を作って訪問するなど、環境の変化が少なくなるよう努めています。</p>		<p>特に入院時は定期的な面会を継続し、ご本人にとって不安にならないよう努めています。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>排泄や着替えについては特にご利用者の誇りやプライバシーに気を配り、耳元で声かけやケアの徹底を図り、またユニット会議の中でも話しあったりする事で意識の向上に努めています。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>傍にいてさりげなく話しかけ思いや希望を聞き取る努力をし、分かる様に色々な方法を使ってご利用者が自ら選択出来る様な場面作りをしています。</p>		<p>ご利用者が意思決定し選択した1人ひとりの想いを叶えるケアを継続していきます。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その日、その時のご利用者の体調または思いや気持ちを尊重し、1人ひとりの状態に配慮しながら対応しています。日々の生活の中で(入浴・外出・起床・就寝時間など)ご利用者中心のケア(個別ケア)に心がけ最大限可能な対応をしています。</p>		<p>今後も最大限、ご利用者が自由に本人のペースで生活出来るように最大限の個別ケアを実践していきます。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>外出時はおしゃれが出来るようにお化粧したり服やカバンなど、ご利用者に選んでもらったり、また悩んでいる様子が伺えた時などはさりげなくアドバイスをしています。ご利用者の望む美容師さんを選んだり訪問理美容を利用しています。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>下膳や食器拭きを一緒に行ったり、食事はスタッフとご利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来る様な雰囲気作りも大切にしています。ホーム内でも季節を感じてもらうためホットプレートや鍋を置き目の前で一緒に調理する事もあります。</p>		<p>ホーム内での季節行事(夏祭り・鍋パーティーなど)なども楽しんでもらう機会を取り入れていきます。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご利用者の居室冷蔵庫やご家族から預かった好みの物を自由に飲んだり食べたり出来る様にしています。また1人ひとりの好みの物をスタッフが把握しており、ご利用者と買い物へ行ったり2階の自販機を利用する機会を作っています。		飲食物も自由にしている。今後も往診医と病状などを考え相談しながら最大限自由に飲食出来る様対応しています。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェックすることでその方の排泄パターンや習慣を把握し、なるべくトイレで排泄が出来る様声かけや支援をしています。		排便に関しては以前半年間、1人ひとりに往診医と連携し取組んだ結果、排便での失敗が激減し今でも継続されています。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間・日にちを決めておらず、いつでも入浴が出来る事をご利用者に伝えてあります。入浴があまり好きでない方に対しては、チーム全体で声かけや対応の工夫を考え共有し、ご利用者1人ひとりに合わせた支援を心がけています。		今後も最大限に自由に入れるようにして楽しんで入っていただくこと、保清に努めており、自由にした事で入浴拒否が減りました。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく日中に活動を促し、生活のリズムを整えるように努めているが、ご利用者の希望などに考慮しゆっくり休めるようにも支援しています。場合によってはゆっくりお話ししたり、温かい飲み物でリラックスして頂けるよう支援しています。		今後もご利用者1人ひとりのペースに合わせて自由に休憩して頂けるよう声かけや見守りの支援していきたいと思っています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事作りや掃除、後片付けや買い物などその方の性格や生活歴に配慮した上での役割作りを行い、外出やドライブ、散歩などで外の空気にふれたり趣味のパチンコなどに行かれたりする機会を多く取り入れています。また季節行事などにも積極的に参加してご利用者もとても喜ばれています。		季節に関係なく外に出る機会を増やしていきたいと思います。また個別での外出も継続していきます。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の協力やご利用者の希望でお金を持たせていたり、外出先では預かっているご利用者の財布を渡し支払いをする機会を作っています。		買い物や外出先では今後もご利用者がお金を支払う場面作りは継続して行っていきたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気のいい日は、ご利用者の希望と体調に配慮しながら散歩やドライブ、買い物など日常的に行っており個別での外出などもご利用者の希望を聞いて随時行っています。		今後も行事ではなくても日々の生活の中で自由にお茶やドライブ、散歩、買い物などしていきます。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行きたいという場所などご利用者の思いを聞き取り、実現するための方策をスタッフ全員で検討し支援に繋げています。外食・外出にはご家族にもお伝えし、一緒に楽しんでいただけるよう支援しています。		個別ケアの実施が継続されており、今も地域資源を最大限に活用した外出支援も取り組んでいるところです。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある場合はいつでもご家族や友人に電話や手紙を出しております。入居時にもご家族にご利用者が電話をかける事についてお話し、ご協力していただけるように努めています。		手紙や年賀状などの住所や名前などもご利用者に記載していただく事でご家族にとっても喜ばれています。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	スタッフはいつも笑顔に心がけ、スタッフから話しかけるよう努めています。又遠慮なくご利用者とご家族だけでゆっくりと過ごせる時間にも配慮しています。ご家族の面会頻度はまったく減ることがなく、ゆっくり過ごして頂いています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	申し送りやユニット会議の時に話し合ったり、ケアの振り返りを行い、スタッフの認識も図るよう努めています。また定期的にホーム内研修や法人内研修を行ったり積極的に外部の研修に参加し理解を深めています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室・玄関に鍵をかけることなく、1階と2階のスタッフ同士が連携を取り、見守りを強化しながら自由な暮らしが出来るよう支援しています。		今後ご利用者が自由に外出したり、2階へ遊びに行ったり出来るよう日中の施錠はしません。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフはご利用者と同じ空間で過ごし、記録を書く時も全員の状況を把握するように努めています。夜間帯も全体を見通せる場所で見守り、入眠状況も定期的に巡回にて確認するように徹底しています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご利用者の状況に合わせて注意、保管をし、1人ひとりの状況に応じた対応をしています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日常、転倒や誤薬について対応策を予防策など会議の場などで話し合い共有しています。防火訓練、日々の防火自主点検の実施、ひやりはっとや事故報告をもとに事故事例検討会議の実施も行っています。		今後も継続してリスクマネジメントをスタッフ全員で学び、考え、共有していき事故ではなくひやりはっとが多くするような取り組みをしています。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急の際のマニュアルは目のつく場所にあることを周知されています。また消防署の協力を得て、救命講習を受けに行ったり、看護師による救急対応の研修も行っています。		全スタッフ受講したが今後も救命講習は定期的に行っていきたい。内部研修でも急変などについては定期的に行われています。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力にて、避難訓練や消火器の使い方を定期的に行っています。非常食も少しずつ確保しており、運営推進会議の中や日々の交流の中で地域の方へも協力依頼をしています。		今後も運営推進会議などで地域の人々への協力呼びかけは継続していきます。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	カンファレンスや事故事例検討会で起こりえるリスクについて話し合い、ケアプランへの反映も行うなどその内容なども含めて、ご家族に定期的に説明するようにしています。		今後もリスクマネジメントをスタッフ全員で行い、ご家族とも日々の面会時やケアカンファレンスなどにて話し共有していきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>日常の健康チェックを行い記録を残すことで情報を共有し体調や様子に変化がある時は状況に応じて受診したり往診医に相談しています。</p>	<p>今後も普段の様子と違う場合、すぐに往診医と連携し、早急な対応を行っていきます。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬に関しては必ず毎時声出し確認をすることで誤薬防止に努めており、薬物の整理、保管も行いスタッフで共有しています。薬剤師との連携も図れており、必要に応じ副作用などについても十分説明頂いています。変化時は口頭、記録でも確認し共有できるようにしています。</p>	<p>今後も薬剤師との連携も図り、ご利用者の服薬を安全に行ってまいります。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>起床・朝食時に牛乳やヤクルトなどの乳製品を摂る様に働きかけるとともに適度な運動や散歩などで身体を動かすよう支援し、自然排便が出来る様努めています。排便困難時、便秘時は往診医、看護師とも連携を図りご利用者の負担にならない様早めの下剤調整をしています。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>歯茎のマッサージ、歯磨きやうがいなどの口腔ケアはご利用者の状態に合わせたケアを行い定期的な洗浄も実施し清潔に努めています。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分・食事量チェックを行う事でスタッフが摂取状況を把握しご家族より元々のご利用者の摂取状況、習慣などを聞き、情報を共有しています。</p>	<p>1人ひとりの食事量、ペースをスタッフ全員で把握しその人に合った食事や声かけ、促しを継続しています。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>毎日、次亜塩素酸での掃除、手洗いやうがいをこまめに行うよう声がけをし、事前のアルコール消毒、ペーパータオルを使用し感染に対する研修なども積極的に参加しスタッフで共有出来るようにしています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>冷蔵庫内の整理・消毒などを定期的に行い、古い食材がないか無駄のないように使用する工夫をしています。食器やふきん、まな板など漂白・熱湯消毒を行い、シンク・調理器具の清潔に心がけています。買い出しや発注などは新鮮な食材を購入出来る様努めています。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関にはイスを置くことで座って靴がはけるよう安全に配慮しており入り口付近にはベンチやテントを置き、花や飾りを増やし気軽に立ち寄って頂ける様努めています。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>太陽の光が多く入る出窓、大きなベランダとなっており季節を感じられるよう出窓からは畑がのぞけ、ベランダには花を植えご利用者やご家族に喜ばれることが増えていきます。</p>		<p>ホーム内でも季節が感じとれるよう壁面装飾にも工夫しています。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングにあるソファやテーブルの配置などご利用者の意見を取り入れ、少しでもゆっくりと自分の家のように感じていただけるよう工夫しています。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時や面会時にご利用者とご家族が相談され使い慣れた家具や食器、アルバムなどを持ってこられ、それぞれのご利用者の生活スタイルに合わせられるよう配慮しています。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>毎日の掃除時に各居室、共有部分の窓を開け、換気に努め、温度はご利用者の様子をみながら、こまめに窓を開けるだけでなく、衣服の調整なども行っています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある</p> <p>数日に1回程度ある</p> <p>たまにある</p> <p>ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族</p> <p>家族の2/3くらい</p> <p>家族の1/3くらい</p> <p>ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように</p> <p>数日に1回程度</p> <p>たまに</p> <p>ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>太いが増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
- ・ご家族との関係作りを大切にしており、毎日面会に来られるご家族や行事への参加などの声かけを多くコミュニケーションをとっています。
 - ・ご利用者の1人、ひとりと向き合う事も大切に1対1(個別ケア)での外出等にも力を入れています。
 - ・地域資源を活用し地域の方との関わりを積極的に行っています。
 - ・事故事例検討会を月に1回行う事でリスクマネジメント月に3回ホーム内研修を実施し色々な分野での研修を行いスキルアップに努めています。
 - ・介護スタッフだけではなく、事務・調理師・看護師などの専門職も在中しています。
 - ・ホーム外の敷地が広く地域との交流スペースとして活用しています。
 - ・1年に1回事例研究発表会を行い、ケアの質の向上に努めています。
 - ・会社全体として今後タクティールケアを行っていきます。
 - ・往診医療機関との勉強会でスキルアップや信頼関係の構築に努めています。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	愛の家グループホーム札幌川沿 (2F はまなす)	評価実施年月日	H21年8月25日
評価実施構成員氏名	綿谷・池畑・井浦・佐藤・山本・滝本・田村		
記録者氏名	綿谷・池畑	記録年月日	H21年9月15日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホームの理念、ユニットの理念を何回も話し合いスタッフ全員で決めました。又、現在では全員に周知され共有した中で実践をしています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝の朝礼で会社・ホーム・ユニットの理念の唱和によりスタッフ1人ひとりが意識をして日々のケアに生かしています。又、スタッフが多く出入りする事務所など目につく場所に理念を掲示したり、ユニットの会議の中でも共有し振り返りや反省、目標をたてています。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議や日々のご家族の面会時など、家族や地域の人々と話し合う機会を設け理解を呼びかけています。又、自らが地域に出ていく計画をたてて、理解してもらえよう実践しています。	地域交流計画を全スタッフがたてて、様々な取り組みを行っています。引き続き実践を継続していく予定です。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所とは、回覧板の受け渡し時、日々の挨拶など積極的に交流を継続しています。野菜やお花などの交換も日常的に行っています。又、近所のボランティアの方の継続的な付き合いも行っています。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の方が定期的に訪問して頂いたり(ボランティア・学生・園児など)、地域のイベントにも参加する機会を多く持つよう心掛け実践できています。	学童保育の方に来ていただいたりと、今後も地域との関係性をより深めていきたいです。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	積極的に地域の研修に参加し、自己のスキルアップを図り、高齢者の方が快適に生活できるよう、日々、認知症ケアの啓発に関わっています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>今後も定期的に勉強会、研修などへの参加を積極的に行っていきます。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご利用者からの訴えが少しでも多くなるよう、話しやすい雰囲気作りに努めています。又、日々の関わりの中からご利用者の表情・言葉などを観察し、思いを汲み取るようにして、少しでも希望に添えるような支援を心がけ実行しています。</p>		<p>これからも訴えやすい環境づくりをしていきます。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>普段の面会には随時報告しており、月に1回のホーム便りやご家族1人ひとりに個別にもお手紙を出し、健康状態、金銭管理、職員の異動などについて報告しています。</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情・意見に関して窓口を設置していることを契約時に説明し、又、玄関前に意見箱を設置し、気軽に書いて頂けるよう目に付きやすい所に設置しています。面会時にもご家族から何かないか、直接言って頂けるような働きかけをしています。1年に1度のご家族アンケートを実施継続しています。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>その都度個別に意見を聞き入れたり、1年に1度の職員アンケートを実施し、全職員の声を聞く機会を設けています。月に1回のスタッフ会議、リーダー会議にての、情報の伝達や意見交換などしています。又、定期的に親睦会やスタッフ交流会などを設けることでコミュニケーションが出来たり話が出来る場を設けています。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>ローテーションにより、様々な状況に対応出来るような勤務体制を整えています。管理者を通常シフトにいれず、ご利用者の状態の変化に応じ、夜間も含め柔軟な対応出来る体制にしています。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>基本的には各ユニットのスタッフを固定にし、顔馴染みのスタッフが対応にあたっています。やむを得なく異動や離職がある場合は引継ぎを十分に行い、ご利用者やご家族に不安を与えずサービスが低下する事のない様に、最善の努力をしています。</p>		<p>ご利用者と一緒にスタッフも他フロアへコミュニケーションをとりに行き来したり、ホーム全体でのイベント(1階2階合同花火など)など取り組むことで、ホーム全体が顔馴染みの関係となっているため、今後も継続していきます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		<p>今後も継続して、法人外の同業者と積極的に交流を図っていきたいです。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際には、ご本人とご家族の思いや不安に感じている事などを十分に聞き、状況などを確認した上で、他のサービスを含め改善に向けた支援を見極め提案し、必要に応じたサービスに繋げるよう努めています。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ホームの見学の際には、出来る限りご本人にも来ていただき、雰囲気などを感じてもらい納得してから利用してもらうよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の生活の中で、ご利用者は人生の先輩である事を常にスタッフは共有しており、ご利用者を介護される一方の立場におかず、支え合う関係作りに心掛けています。		和裁が得意だったご利用者から、縫いものを教えてもらったり、料理にこだわりがあったご利用者から、調理方法を教えてもらったりなど、今以上にご本人の生きがいを見つけ活かしたケアに努めていきます。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常に不安や要望などが聞ける対応に努め、ご家族と同じ想いで支援出来る方法を考え実践しています。又、ご本人の状態やご家族の都合などを配慮しながら、行事や外出、ケアカンファレンスに積極的に誘い、ともに支えていく関係を築いています。		今後もご家族と共にご本人を支えていけるよう一緒に話したり、喜び笑いあえる機会を作っていきます。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会の少ない方(遠方の方など)には、手紙や電話などで日々の暮らしを伝えたり、面会時など必要な場合には仲介をしたりと、よりよい関係作りの継続に努めています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人にとって馴染みのご家族や、友人の面会時などには過ごしやすい雰囲気作りに努め、関係が途切れないよう支援しています。又、地域など馴染みの場所への外出など、個人の生活習慣を尊重しながら支援しています。		馴染みの場所に関しては、今後も個人の生活習慣などに合わせ、個別での外出支援に配慮していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ティータイムや外出時、また食事の時などの日々の生活の中で、ご利用者同士のコミュニケーションがとれるような機会を利用し、共通の話題を提供するなど、ご利用者同士の関係を把握した上で、一人ひとりが孤立せずに関わり合えるよう、支援していきます。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用が終了しても、ご家族より相談があった場合は、ご本人にとって1番良い方法を考えさせていただいたり、定期的な連絡や訪問をさせていただいたりしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者のこれまでの暮らし方や生活習慣を大切に、日々の生活の中でのさり気ない一言や表情に耳を傾け、その方の思いや心の内を確認しています。又、ご家族面会時、ケアカンファレンス時など常に情報を得よう努力しています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用し、入居前の面談で時間をかけてご本人とご家族からアセスメントをとったり、入居後のご本人との話し合いの中や行動などから馴染みの暮らし方を模索したりと、スタッフで共有し把握できる様に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ご利用者一人ひとりの生活リズムを大切に、言動や行動の中から心身の状態を感じとったり、日々の生活の中での行動などから有する力を見つけ、ケアにつなげたりと、ご本人の現状を総合的に把握できるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人がどんな事を求め、必要としているのか、ご本人との日々の生活の中で気付いた事、感じた事をスタッフ同士もモニタリングやカンファレンスを行い、意見交換や情報の共有により介護計画の作成を行っています。又、面会時、ケアカンファレンスの際には、ご家族からの思いや意見を聞き、反映させるようにしています。		今後もご利用者やご家族参加のケアカンファレンスを継続し、ご利用者本位のケアプランが作成されるよう努めていきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご利用者の状態変化時には期間を待たずに見直しを行うと共に、ご家族及びご本人の要望をその都度お聞きしながら検討し変更しています。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ご利用者の言葉・表情など事実そのままに記録し、日々の様子やケアの情報交換を共有し介護計画に生かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎、ご利用者のご家族の葬儀へ一緒に参列するなど柔軟に対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ご利用者が安心、安全、且つ楽しく暮らせるよう、定期的に消防訓練、ボランティアさんや学生など(園児)による、趣味やレク活動を実施しています。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人の希望に応じて訪問利用サービスや、近隣事業所の温泉保養所を利用、色々な機会を通じて他のサービスを利用、情報交換や話し合いもしていき、社会資源の把握に努めています。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加して頂き、情報交換や協力関係が構築されてきています。又、会議の中から様々な助言をいただき、サービス向上に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、ご家族と協力しながら通院介助なども行っています。緊急時又は状態変化時は往診医と24時間体制であり、常に連携を図っています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	往診医が認知症高齢者に必要な知識と見解を要している為、指示や助言をもらっています。又、地域の専門医との連携もとってくれています。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	法人内で看護師が確保されており、日常の健康管理、ご利用者の把握、状態の変化にスムーズに対応でき、情報の共有もできています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にご利用者の状態や情報を医療機関に提供したり、スタッフが交代で見舞いに行ったり、医師や看護師、ご家族と話し合い、治療方法、通院など早い段階で退院できるよう、必要な支援をしています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に重度化に伴う確認書を作成し、ご本人やご家族の意向をふまえた上で事業所が最大限できる支援方法を話し合っています。又、日頃から面会時やケアカンファレンスなどの中でも重度化した場合の支援について話し合い、情報を共有しています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご利用者やご家族の意向を重視、緊急時は常に医療機関やご家族と連絡をとれる体制をとっています。重度化、終末期に向けた研修に積極的に参加し会議などで報告会を実施しています。		終末期ケアは難しいものと認識し、適切な援助ができるよう必要な知識と安楽な環境づくりをいつでも整備できるようにしていきたいです。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他の事業所に移られた場合は、アセスメント、ケアプラン等、必要な情報提供が出来る様に、スタッフが機会を作り訪問し、環境の変化が少なくなり、ご本人が不安にならないよう努めています。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ご本人のプライバシーを尊重し、声掛け、ケアの徹底を実施し、スタッフ会議で話し合ったり、ホーム内研修などで意識の向上に努めています。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご本人が理解できる方法で説明し、ご本人が自由に選択できる声掛けや場面づくりを行っています。</p>		<p>場面ごとに自己決定ができるような声掛けや関わりなどを工夫すると共に、スタッフの意識も更に向上しています。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日頃よりご本人の考え気持ちを尊重し、出来るだけ個別で接し、真意を汲み取る支援を行っています。</p>		<p>今後もご利用者1人ひとりの生活に心掛け、ホーム内ルール第5条の「入居者中心の生活を奪わない」暮らしの提供をしています。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご本人の希望をその都度伺い、ご本人の望む美容師さんを選んだり、訪問理美容を利用します。洋服の選択、支援、個性を大切に、お化粧品など楽しんでいます。又、外出支援として、エステを楽しみに行く場合も作っています。</p>		<p>ユニット全員女性のご利用者で、おしゃれや身だしなみに興味を持っておられる方が多いので、今後も個性を大切にできるような支援をしています。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>畑の収穫を楽しみ、食卓に並べたり盛り付け、下膳を一緒に行い、食事はスタッフも共に食べています。又、嗜好に合わせ、個別での食事提供をしたり、ホーム内で手作りパイキングなども行い食べる楽しみを感じてもらっています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	各スタッフが個人の好みの物、形態など把握しており、希望に添い用意しています。おやつや飲み物などは、ご利用者と一緒に買いにいったりし、食事制限などをなるべくつぐらず(往診医や家族の意向も含め)自由にしております。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を用い、個々の排泄パターンや習慣などを把握し、なるべくトイレで排泄できるよう声掛け、支援をしています。又、気持ちよく排泄できるようにプライベートに配慮しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	1番に入りたい方は1番に、毎日入りたい人は毎日、お風呂の嫌いな方には適度に声掛けをして清潔を維持できるよう支援しています。個人の好みの温度を把握しています。又、午前、午後でも入浴できる体制にしています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご利用者の体調や希望に添って休息の声掛けや眠れるよう支援しています。不眠がちなお利用者にはゆっくりお話しをしたり、夜間でも不安にならないよう、テレビやCDや電気をつけたまま休んでもらったりもしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個人の趣味に合わせてパズルや読書や歌は日常的に行い、外に出る機会も定期的につくっています。又、その方の生活習慣に合わせて買い物や食器拭き、おしぼりたたみなど役割も提供しています。		今後も1人ひとりに合わせた役割の提供、外出や外食も定期的楽しめるよう支援を継続して行きます。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の協力を得てお財布を持ち、外出先で支払いをしていただく場面作りに配慮しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご利用者の希望と体調をみてドライブや買い物などは日常的に行っています。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外食や外出などご利用者の希望をお聞きし、場所を決めたり、季節の花や食べ物を楽しんでもらうなど、ご家族にも定期的に声をかけ、一緒に出かけたりしています。		今後もホームルール第4条にもなっている、「ホームに閉じこもらない」の認識を高め、ご家族も一緒に出かけられる外出支援をしていきます。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望時、ご家族や友人に電話や手紙を出したり、電話が来た時は、ご本人に伝えゆっくり居室で話していただくこともあります。手紙はお渡して居室に貼っていつでも見られるよう支援しています。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも来ていただけるよう、声かけや雰囲気作りに配慮しています。面会時にはお茶を出し、ゆっくりお話できる機会を設け、信頼関係の構築に努めています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。	スタッフの休憩室に身体拘束について貼ってあり、スタッフ会議や朝礼、ホーム内研 修、社内、外部研修で学ぶ機会を増やしスタッフの共通認識を図っています。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や玄関に鍵をかけることなく、1階と2階、又は庭や玄関前を自由に行き来できる ようにしています。安全のため、1階、2階のスタッフ間で連絡をとり協力し合いながら 見守りをするすることで、自由な暮らしを支援しています。		今後も日中は鍵をかけないケアを、1階、2階スタッフに関わらず、ホーム 全体が協力し合いながら、継続していきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	全体を見渡せる場所において、ご利用者と共に過ごしたり、スタッフ同士声を掛け合い、全員の状況を把握できるよう努めています。トイレにはカーテンの使用など安全確認が早くできるよう工夫し、お風呂は、1人ずつ入浴しプライバシーに配慮しながら見守りしています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご利用者の状況に合わせ見守りし、使用後は保管したり、リスクを考えた上の対応をしています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	防火訓練、日々の防火自主点検の実施、ひやりはっと、事故報告書をもとに事故事例検討会議の実施を行い、対応策や予防策をスタッフが共有しています。誤薬防止の為、配薬の際は、「氏名」日付「いつの薬か」「錠数」などを声を出し、スタッフ間で確認し合い、事故防止に努めています。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て、救命講習、救急手当や蘇生、又、医療連携の看護師より急変時の対応などについての連携なども図っています。救急時対応マニュアル、急変時連絡網を設置し早期対応、対処を心掛けています。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力にて、避難訓練や消火器の使い方を定期的に行っている。非常食、水を保管し、定期的に点検しています。又、災害時マニュアルなども作成し周知しています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こりえるリスクについては、入居時に説明し、又、カンファレンスで話し合い、ケアプランに反映させ、ご家族に定期的に説明しています。ご家族がカンファレンスに参加する機会も設けております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日健康チェックを行い体調の変化や様子に変化がある時は、状況に応じて受診したり、往診医や薬剤師などと相談したりしています。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬品の整理や保管を行い、スタッフで共有しています。薬の変更時は、口頭でも記録でも確認し、共有できるようにしています。又薬剤師からの情報やアドバイスも必要に応じて行っています。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>水分を多く取ってもらえるよう声がけし、体操や散歩などで身体を動かすよう支援している。又、往診医や看護師とも連携を図り、早めに下剤調整を行い、ご利用者の負担にならないよう配慮しています。</p>	<p>今後も往診医や薬剤師と連携を図り、ご利用者が不快なく快便出来る様努めていきたいです。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>歯磨きや義歯洗浄やうがいなどの口腔ケアは、ご利用者の状態に合わせたケアを行っています。訪問歯科にも気軽に相談し、必要に応じた口腔ケアなども行っています。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分や食事チェックを行うことでスタッフが摂取状況を把握し、家族よりもとものご利用者の摂取量や習慣などを聞き、情報を共有しその人にあった声掛けや促しを行っています。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>毎日、次亜塩素酸での掃除や、手洗いやうがいをこまめに行うよう声がけしたり、食事前のアルコール消毒、ペーパータオルを使用し、感染予防に対する研修なども積極的に参加し、スタッフで共有できるようにしています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	食器やふきん、台所用品を漂白し、シンクなども清潔に心掛けています。冷蔵庫内の食材チェック、買出しや発注は2～3日ずつ行い、常に新鮮な食材を揃えて使用するよう徹底しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	プランターには花を植え、テントやベンチを置き、近隣の方が気軽に訪問できるような圧迫感のない明るい雰囲気づくりを心掛けています。		畑委員を中心に、スタッフ、ご利用者が一体となって楽しめるように、ホーム全体が明るくなるような環境づくりを今後も行っていきます。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ご利用者と共同作業をして創作した壁画やボランティアさんで行う季節にあたる生花を取り入れて明るく居心地の良い空間づくりを心掛けています。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	リビングにあるテーブルや椅子、ソファの配置をご利用者と相談をし、一人ひとりがくつろげる空間づくりを心掛けています。又、疲れがみられた時には休んで頂けるようにソファベッドを置いています。		今後もその方にあった心地よい空間づくりを心掛けていきます。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ご利用者とご家族が相談をし、使い慣れた家具や食器などを持ち込んで頂いています。導線を視野に入れた家具などの配置と、心地よい空間づくりを心掛けています。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	毎朝の清掃時や気温変化に応じて換気を行っています。又、ご利用者の様子を見ながら衣類の調整なども含め温度を調節しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある</p> <p>数日に1回程度ある</p> <p>たまにある</p> <p>ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族</p> <p>家族の2/3くらい</p> <p>家族の1/3くらい</p> <p>ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように</p> <p>数日に1回程度</p> <p>たまに</p> <p>ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<p>太いが増えている</p> <p>少しずつ増えている</p> <p>あまり増えていない</p> <p>全くいない</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>ほぼ全ての職員が</p> <p>職員の2/3くらいが</p> <p>職員の1/3くらいが</p> <p>ほとんどいない</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての利用者が</p> <p>利用者の2/3くらいが</p> <p>利用者の1/3くらいが</p> <p>ほとんどいない</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての家族等が</p> <p>家族等の2/3くらいが</p> <p>家族等の1/3くらいが</p> <p>ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
- ・ご家族との関係作りを大切にしており毎日面会に来られるご家族や行事への参加などの声かけを多くしコミュニケーションをとっています。
 - ・ご利用者の1人ひとりと向き合う事も大切に、1対1(個別ケア)での外出などにも力を入れて取り組んでいます。
 - ・内部・外部研修の体制充実しており、スタッフのスキルアップに努めています。
 - ・事故事例検討会を月に1回行う事で、リスクマネジメントを行っています。
 - ・介護スタッフだけではなく、事務・調理師・看護師などの専門職も在中しています。
 - ・ホーム外の敷地が広く地域との交流スペースとして活用しています。
 - ・1年に1回事例研究発表会を行い、ケアの質の向上に努めています。
 - ・会社全体として今後タクティールケアを行っていきます。
 - ・往診医療機関との勉強会でスキルアップや信頼関係の構築に努めています。
 - ・地域に根付いた援助を心掛け、町内会の行事や地域交流を図れるよう積極的に交流機会を設けています。